

## 近松研究所開設二十周年記念『曾根崎心中』展報告

乾 安代 (園田学園女子大学近松研究所)

園田学園女子大学近松研究所では、開設二十周年記念事業として本年度二つの展示を開催した。『曾根崎心中』展はそのうちの一であり、2008(平成20)年11月15日～28日に開催(於近松研究所)。

『曾根崎心中』展に展示したのは、

- 1 8行25丁本 竹本筑後掾正本、山本九兵衛・山本九右衛門板 『曾根崎心中』  
黒部市美術館所蔵
- 2 8行25丁本 奥書欠本 『曾根崎心中』  
大阪府立中之島図書館所蔵
- 3 14行9丁半・絵入本 山本九兵衛板 『曾根崎心中』  
天理大学附属天理図書館所蔵
- 4 6行43丁本 竹本筑後掾正本、山本九兵衛・山本九右衛門板 『曾根崎心中』  
甲南女子大学図書館細川景正文庫所蔵
- 5 8行24丁本 宇治加賀掾正本、山本九兵衛板 『曾根崎心中』  
大阪府立中之島図書館所蔵
- 6 寸珍絵本 『曾根崎初夢曾我』  
小谷成子氏所蔵

以上の6本のみである。そして、6を除いた5本はすべて、近松門左衛門作『曾根崎心中』の正本である。

今回のこの展示には、黒部市教育委員会からの要請を受け、近年紹介された1の黒部市美術館所蔵本の位置づけを明確にする、ということもあわせて目論まれていた。そのため、展示期間中に、私ども研究所員はもとより、研究所がご指導・ご協力をお願いしている関係の先生がたによる調査を複数回実施した。

専門の先生がたによる丁寧かつ詳細な調査の結果、

- 1 黒部市美術館所蔵本が、『曾根崎心中』上演後の元禄16年中に刊行の初板本である

とすることに矛盾はないこと。

2 当該本は水損等による痛みが大ではあるが、原装本と言い得ること。

の2点が確認された。

1については、言うまでもなく、従来唯一存在の知られていた大阪府立中之島図書館所蔵本(上記2)との比較検討による結果であるが、当該2本のきわめて詳細な比較によって、さらに、

1 両本は同一の板木を使用したものであること。

2 印字の微妙な相違や墨付きの状況等から、大阪府立中之島図書館所蔵本のほうが前に印刷されたもの、と考えられること。

の2点が確認された。但し、2に言う「前に印刷」という点については、同時期に印刷したものの初めのほうの印刷と後のほうの印刷ということなのか、時期を異にする印刷なのか、までは特定できない。

以上に述べた、黒部市美術館所蔵本の位置づけの明確化は、同時に大阪府立中之島図書館所蔵本(上記2)の位置づけの確定をも意味するものであった。すなわち、当該本は第19丁の落丁と奥書を欠くという現況のために、従来、『曽根崎心中』上演後まもなくの初板正本であろうとの推定はされていたが、確定には至っていなかった。それが、黒部市美術館所蔵本との比較によって、確定したのである。

ただ残念なことに当該本は改装されているので、このこと(及び欠丁)による瑕疵は補い得ない。しかしながら、黒部市美術館所蔵本とは異なり、保存状況もよく、今後も初板本『曽根崎心中』正本としての価値にかわりはない。

展示品(書籍)6点のみ、しかも展示期間実質10日間という短時日の展示、というきわめて小規模の記念展ではあったが、上述の成果を得、私ども近松研究所の開設二十周年にふさわしい展示であった、と自負している。

最後に、黒部市美術館所蔵本との比較検討のために、当該本の詳細な調査をご快諾くださった、大阪府立中之島図書館関係各位に深謝申し上げ、『曽根崎心中』展報告とする。